

校長挨拶



校長 隠澤浩雄

広島県立広島皆実高等学校は、明治34年に県下で初めての県立女学校として創設された広島高等女学校（「広島県女」）を母胎にしています。110年を超える歩みを持つ本校の歴史と伝統の中に脈々と受け継がれてきたものは、「少々無理なことでも頑張りぬく」、「文武両道」という広島県女の精神です。本校には、「一人一人の高いレベルの文武両道」に向かう挑戦者がたくさんおります。生徒達の高い志を支援し、グローバル化が進行する社会で活躍できる有為な人材を育てることを目標として取組みを進めております。

平成29年度卒業生においては、難関国立大学に5名・広島大学に10名合格を筆頭に、普通科・体育科の卒業生の35%にあたる75名が国公立大学に合格しました。受験勉強のみとどまらず、様々な学びの場で培った力で、大学入学後も一層学問に励み力をつけていると高い評価を受けています。

部活動では、2018年チューリンゲン国際大会57kgで優勝（柔道部）、U17 FIBA世界選手権アジア予選会（バスケットボール部）出場する等世界の舞台で活躍する選手がいます。また、国内では、全国大会出場者が156名にもなりました。1部の例をあげると、バスケットボール部ではウィンターカップ2017で男子・女子ともにベスト8、国民体育大会では男子サッカー・弓道が準優勝、陸上競技少年男子110mハードルで4位という成績をあげています。美術部は第41回広島県高等学校総合文化祭・第16回絵画・彫刻コンクールで大賞を受賞した作品が第42回全国高等学校総合文化祭に出品されます。その他、高校生平和大使として国連の軍縮会議に参加した生徒もいました。

また、本校には専門学科として、5年一貫教育の衛生看護科・専攻科があり、最短期間で看護師資格を取得することができます。しかも、平成16年度以来14年間、看護師国家試験合格率100%を維持しています。生徒たちは、広島大学病院などでの臨地実習等を経て高度な医療技術を身に付け、県内を中心に確実に就職していきます。

平成4年度に設置された体育科は、学校の体育的活動で広島県をリードし、アスリートや指導者の育成などを行っています。平成25年7月には、県立学校では初めてグラウンドが人工芝化され、整った環境のもとで競技力の向上を目指しています。

このように本校では3つの学科の約1000人の生徒たちが、それぞれの分野のトップを目指して協働し、切磋琢磨し、大きな成長を遂げています。

こうした本校の教育活動の取組みを、このホームページを通じて発信してまいります。地域の皆様、県民の皆様、全国で活躍しておられる同窓生の皆様、今後とも広島皆実高校に多大のご支援を賜りますようお願い申し上げます。